

## 生きてて感謝感謝だ

放課後、四時九分のバスに乗ろうと急いだ。

その時、僕がまだ、大路を横断しないうちに、バスがバス停に止まってしまった。

僕は急いで、大路を横断しようとして、もう少しで、三輪トラックにぶつかり、ひかれるところだった。

バスの中で、車中から、振り返り、その現場を見て、そこで、引かれて、血み泥になっている自分を想像、思い出して、ひんやりした。

家に着くと、母は景気よく、僕に三百円くれた。

働きに行って来たのだ。

今から、また行くという。

夜の仕事だ。

父は金もうけの当てがない。

家には金がない。

母が水商売で、親戚のところへ働きにゆく一方、

この頃、父は一日家にいて、家計を担当している。